

# 街

ぶよになる」戦後間もない一九四八年、トコソコ商会を創業。貨幣、切手、古銭、銅貨の鑑定第一人者。南区井土谷上町の店舗と倉庫には紀元前四〇〇年以上の中国、周代の貨幣、刀幣、布幣や、その後の中国、日本の古銭など約一万種以上を収集、展示する。

「長年、この商売をしていると経済の先行き、国の盛衰が見える。例えば、明治から昭和にかけての二銭。商品値のガクステスに七枚並べて、だんだんと小さくなった。裏面の質も銅、ニューム、スズに落ちた。まさにインフレーション。戦後も五十円玉が小さくなった。国は膨大な国債を乱発、今後もインフレ政策をとらざるを得ない。国力が落ちているところだ」

古銭ブームで横浜市内に一瞬、約二十軒の小売貨幣問がいたが、今はトコソコ商会を名の軒。投資目的で、銭もついで。のための収集家がバブル崩壊のころまでは数えきれなかった。

「東北地方の若い医師が

ある日、来店した。倉庫は覗き、私は彼にこんな話をした。三蔵法師はインドに渡る途中、西域の高昌国に寄って、国主にもてなされた。罽賓、烏戈の隣国に誘われた薩摩の国。西遊記には三蔵法師に立ち寄り、誘導することある。来店の一週間後、偶然、高昌国の珍しい古銭を手。夜、医師に電話で伝えたら翌朝、

医師が東北から駆けつけ、店前で待っていた。よほどその古銭がほかにかわったのか、バブルが終った今、本当のコレクターが立ち上がったとい

られぬほどの古銭の魅力は何なのか。

「収集家は形や字にほれたら、学者が歴史の裏証のため集めたりもするが、共通するのは遠い時代のロマンスを、当時の古銭越しに思いをはせるため。私は商人だ。売って、買ってもらいたい。コレクターが集ると取引が減少、売り上げも落ちるはず。楽天主なのか。」

「歴史が時代がいい。今は国だが、あとは上手いお金の本当の意味が分からず、そろそろ捨れる。砂土に設計図を描き、染してスルして、おかげよと考える人が多から、お金はいやしさを象徴にされてしまいが、本来、例えば職人ならその綱の象徴なんだ」

（聞き手・高野 敬之 記 書）

## 遠い時代に思いはせ

いしをかこころあろう  
石塚小五郎さん

貨幣商



「戦の前後、戦時時代の古銭は舞って大急ぎ。陣札を露呈したかった軍需の古銭はあふれた」

神奈川新聞「街」平成8年7月11日掲載  
「遠い時代に思いはせ」——貨幣商 石塚小五郎  
協力：神奈川新聞社